

「適期播種」により病害や凍霜害を 防止しましょう

1. 「びわほなみ」の播種適期

早播きは、黒節病や縞萎縮病の発生を助長し、大幅な収量低下につながります。特に、過去に黒節病や縞萎縮病が多く発生したほ場では、早播きは絶対に避け、適期の範囲内で遅めに播種しましょう。

また、秋播性の低い「びわほなみ」は、暖冬年では幼穂形成期や茎立ちが早まり凍霜害が発生しやすくなりますので、適期播種に努めましょう。

地域	播種適期
湖辺・平坦	11月5日～11月20日
中山間	11月5日～11月15日



黒節病
(3月中旬頃の状況)



凍霜害

2. 「びわほなみ」の播種量は 8kg/10a です！

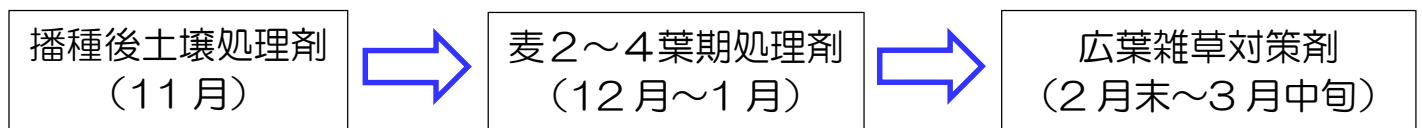
「びわほなみ」は分けつが旺盛な品種のため、厚播きをすると茎数が過剰となり、病害発生の原因となります。適量播種を心掛けましょう。目標苗立数は 150～200 本/㎡ (条間 25cm の場合、1m に 40～50 本程度が目安) です。

なお、毎年必ず種子更新をしてください。

3. 雑草対策を確実に行いましょう！

①播種前に発生した雑草は、播種直前に丁寧に耕起するといった、雑草対策の徹底が必要です。播種までに土壌をしっかりと乾燥させ、播種前耕起等で細かく砕くことで、播種精度を高め、出芽を揃え、土壌処理除草剤の効果を高めます。（播種前耕起で抑制されない雑草には、非選択性除草剤を活用しましょう。）

②雑草の多いほ場では体系防除を実施



4. 排水対策

降雨後に排水口に向かって排水できているか確認し、不十分な場合は補修しましょう。



排水溝は尻水戸にしっかり繋ぐ



溝の泥はしっかりさらうこと